

## 変わる部活動 その課題



林 悦子議員

**問** 国や県に、部活動改革の動きがある。その問題点と課題について伺う。

**答** 教育長 スポーツ庁から、「休日の運動部活動を、令和7年度末までに、段階的に地域移行する」方針が示されました。今後、市は検討委員会を立ち上げ、推進計画を策定します。

**問** 地域移行の理由と問題点は何か。  
**答** 教育長 中学校の教職員の長時間労働の一因が、部活動指導とされています。しかし、地域移行には

問題点もあると考えています。スポーツクラブなど、指導者が豊富な都市部と異なり、本市では、指導者の確保や管理責任の所在が難しくなること。また、活動場所が学校でなくなれば、送迎など人的・時間的、金銭的負担が生じると思われます。

**問** 部活動の教育的意義について。

**答** 教育長 部活動は、学校教育の一環として、様々な成果を上げてきました。学年、学級の枠を超え、自主的に集まった生徒が、顧問の指導下、目標を持ち、切磋琢磨し、社会性や豊かな人間性を養うことができます。更に、部活を通して成長し、自己肯定感を持つて、進路決定へ進

む。生徒にとっては生活のライフラインであり、大人になっても続く仲間は、人生の宝です。この意義を見失うことのないよう、取り組んでまいります。

**問** 教員の長時間労働の原因は他にもあるのではないか。

**答** 教育部長 小学校における英語・必修化・キャリア教育・ICT教育、その準備や評価、保護者への対応など。更に、国への報告物が一日平均4〜5件あり、負担となっています。

**問** 都会に住む政治家の子弟は、殆どが私立中高一貫校に通学し、部活改革の対象外。これは教育の二重基準で、地域格差・経済格差が広がる。桜川市は、教職員に部活動手当を支給するなど、独自の対策も目指してほしい。

**答** 市長 今後検討します。